

in「燕三条 工場の祭典」 耕場の祭典

2018
10/4 THU
10/7 SUN

10/4(木)から開催される第6回「燕三条 工場の祭典」。昨年は来場者が5万人を超え全国的にも注目度がアップしている同イベントの、農園部門が『耕場の祭典』です。まだ未体験、という人に知ってもらいたいその魅力を、3人の若き農園主に教えてもらいました。



樋浦幸彦さん
(ひうら農場:燕市)
「本町そ菜出荷組合」に加入し、「もたまきゅうり」や無農薬米などを栽培。他業種を巻き込んだブランディングを手掛ける。

内山徳寿さん
(内山農園:三条市)
「かっこ悪くない農家」を目指しながら、次世代へ農業の魅力を伝えることに注力。無農薬栽培に挑戦し、年間約50品目の野菜を生産。

渡辺康弘さん
(渡辺果樹園:三条市)
「食べたらず笑みになる果物」を目指し、土づくりからこだわったブドウや梨、ルレクチェなどを栽培。

「転んだり、思い思いに過ごしてもらおう。企画が畑の空気を五感で感じられると好評です」。昔は「けもの道」とも呼ばれた細い土手を抜ける「渡辺果樹園」への道を、「となりのトトロ」の風景のようにだと、わざわざ自転車で訪れる人もいるそうで、各園のロケーションを存分に味わえるのも大きな魅力といえます。これはまさに、体感してみないとわからないことかもしれません。



支えてきたのは地域の農産物。農業は地域の産業と一体ともいえるので、この機会に両方のよさを味わってほしいです。渡辺さんは「直接畑に入って、そこで採れるものを食べてもらえれば、少くも、農家にとってはダイレクトに消費者の音が聞け、来場者には農産物のほんとの美味しさを知ってもらえるメリットがあります。特にお子さんには、その場で美味しいと感じてもらえると、それが食の財産にもなると思うので、ぜひ家族で楽しんでほしいです。そして「農家にとっても、自分の農園の魅力を理解するいい機会。今回は地元レストランとのコラボ企画に挑戦していますので、おにぎらず弁当を畑で味わって感想をぜひ聞かせてください」と樋浦さん。3人には、地域の農業をもっと知ってもらいたいという共通の熱い思いがありました。そんな作り手の思いと地元の良い採れたて食材が待つ「耕場の祭典」を訪れるチャンスは、まもなくやってきます。

ARを使って写真にスマホをかざそう! 農園の皆さんからのメッセージをご覧ください。 (動画を見るにはP18へ)

子どもも楽しめるイベント盛りだくさん!

動画閲覧期間は1か月です。9/25(火)▶10/24(水)

「耕場の祭典」3年目の参加農園は8園。渡辺さんたち3園以外ではハイブ、梨などの農園やレストランも参加します。収穫体験や即売の他、「渡辺果樹園」ではシャインマスカットの食べ比べ、「内山農園」では自家栽培の無農薬野菜をたっぷり使ったけんちん汁と新米コシヒカリのふるまい、「ひうら農場」では和洋中3種のおにぎらず弁当の提供など、農園の雰囲気とともに味わえる食企画も充実しています。



「耕場の祭典」を知っていますか?

「燕三条 工場(こうば)の祭典」では平成28年の第4回から、工場だけでなく、「耕場(こうば)」と三種のK O U B Aの参加に門戸を広げていますが、実は第1回から参加していたという内山さん。「工場で作られる包丁などのキッチン用品と、自分たちの作る野菜など食材はつながっているし、お互いの魅力を協力して発信できた方がいいと思います」。

渡辺さんは「工場見学は休憩がてら、地場の食べ物も楽しんでほしい」という思いで、以前から行っていた、畑の朝カフェを、同時開催。

内山さんに誘われ第2回から参加した樋浦さんは「イベントをきっかけに近郊の人が来てくれて、ふだん消費者に直接会う機会がない農家としては、皆さんがハウスに植えてある1000本のきゅうりに圧倒されている姿を見て、消費者の感覚を肌で感じられた貴重な経験でした」と初参加の思い出を語ってくれました。その後、内山さんらの呼びかけで参加者も増え、第4回に「耕場の祭典」という名称が決定。発案者は樋浦さんでした。「稲刈りに思いついたんです。農業も工場と同じものづくり。だなど。燕三条は農業も盛んだとPRしたくて」との思いで、新たにスタートして2年。「正直まだまだ認知度は低い」と皆さん感じているそうです。そこで、名を冠して3年目の今

百聞は一見にしかず 開かれた農園の魅力

ふだん足を踏み入れることのない農園に入る、それ自体が一般人には非日常体験ですが、土地で採れたものをその場で食べられることがやはり一番の魅力だと内山さんは感じているそうです。「収穫体験だけだと感動は弱いかもしれませんが、食べてもらうと反応がまったく違います。たとえば、スーパーの小松菜しか食べたことのない人が新鮮な採れたてを食べると、ぜんぜん違うと感じるように」。

その場で、という要素も大きいと言っているのは渡辺さん。「うちのルレクチェ畑は1300坪ありますが、土作りにこだわっているのでふかふかの感触が気持ちいいんです。そこに用意したマットで寝



生産者の話を聞きながらハウスで食事!

見て楽しい、食べて美味しい! 『耕場の祭典』の楽しみ方

1 ブックレットで体験情報をチェック!

※写真のブックレットは2017年のものです。

2 各体験の申し込みは早めに

10.5-8
10.5-8
10.5-8

燕市井土巻458-3
458-3 Idomaki, Tsutsumi-city
TEL 090-2724-6536 FAX 0256-64-4052

3947

3 ピンクストライプが目印!

いよいよ当日。ピンクのストライプが見えてきたらもう少しで会場です。事前に会場までの道順を確認しておくともスムーズです。*詳しくはP14-15をご覧ください。

問合せ 「燕三条 工場の祭典」実行委員会事務局
公益財団法人燕三条地場産業振興センター 産業振興部燕三条ブランド推進課 ☎0256-35-7811